

イベント開催のご案内

■第2回あなん天文自然講座 『月を知ろう～文化から月面まで～』

日程：2022年11月3日(木・祝)

時間：13:30～14:30

対象：どなたでも

参加費：無料

定員：30名程度(先着順)

申込み：必須(10月23日9:30よりお電話にて / TEL: 0884-42-1600)

講師：鈴木綾美(科学センター職員)

内容： 私たちにとって一番身近な天体でもある月。お月見などの文化から月の表面、11月8日に起こる皆既月食についてなど、体験を交えながらお話いたします。



■特別観望会 皆既月食を見よう！

日程：2022年11月8日(火)

時間：17:30～22:00 ※悪天候の場合は中止(16時頃に判断)

対象：どなたでも(中学生以下は保護者同伴)

参加費：有料(一人100円、幼児無料)

申込み：必須 10月30日の9:30より開始。

お申し込みは電話(0884-42-1600)またはホームページより。

定員：60名程度(先着順)

内容： 約1年5ヶ月ぶりに起こる皆既月食を科学センターの望遠鏡で観察してみよう！

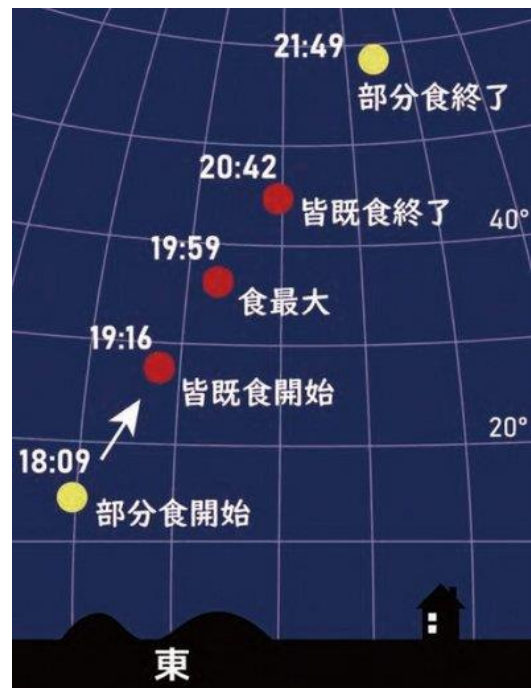
YouTube ライブ配信も予定。

事前・当日の取材・出演・解説などの依頼、大歓迎！資料・画像・映像の提供も可能です。



皆既月食の様子 (2018年1月31日)

撮影：阿南科学センター



月食の行程/阿南市科学センター作図

(時刻は国立天文台暦計算室より)

科学センター新事業 「市民と行う阿南市の夜空の明るさ調査」

■事業の目的

市民とともに夜空の明るさ調査を行い、夜空の明るさマップを作成することで、将来的に以下の**基礎資料**になることを目的とする：

- 1) 阿南市の自然資源に関する保全活動（ウミガメやホタルなど）と街の活性化
- 2) 天文台がある地域として、星空（観察スポット）を使った街の活性化
- 3) 夜間のエネルギー消費の見直し、豊かな自然との共生など、地域の持続可能な社会の実現



(本事業に関連する SDGs アイコン)

■具体的実施内容及び方法

阿南市を1平方kmのメッシュで区切り、**約280地点**の夜空の明るさを測定する(図1)。夜空の明るさ測定は天文分野で活用されている**スカイ・クオリティ・メーター(SQM-L)**を使用(図2)。この測定器は測定方法が簡便で、ボタンを1回押すと数秒で夜空明るさ(等級/平方秒角)を測定することが可能。なお測定器の導入予定台数は4台。事業の活動資金は「令和4年度科学系博物館の活性化への助成事業」(一般財団法人全国科学博物館振興財団)を財源としている。

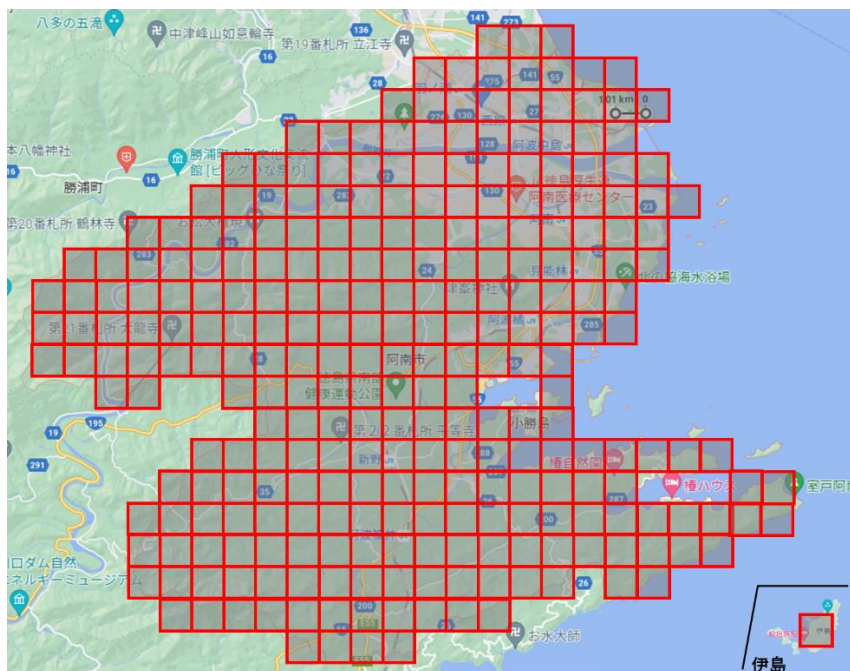


図1 夜空の明るさ調査範囲と測定地点の目安



【図 2 左】 SQM-L 本体。ボタン一つで夜空の明るさ測定できる（結果表示も数秒）。

【図 2 右】 新月期に阿南市羽ノ浦町内でのテスト観測の結果（20.46 等/平方秒角）。

■今後の展開

【2022 年 11 月頃より】

- 「あなん夜空の明るさ調査隊」と題し、市民から一緒に活動してくれる調査隊員についてホームページを通じて最大 4 組募る(子どもも対象とするが、夜間の活動のため保護者の協力も不可欠となる)。
- 調査隊員向けに測定器の使い方、数値の記録方法や報告の仕方、調査に適した日などの事前講習会を 1~2 回程度行う。その後、本格的な調査を開始予定（測定期間は約 4~5 ヶ月を想定）。
- 測定結果を阿南市科学センターで集約。

【来年 3 月末頃】

- 夜空の明るさマップ完成（予定）。
完成の暁には事業成果の PR 活動を行う。科学センターでも「阿南市の夜空の明るさマップ」の展示を行う予定。

※ 学術的に精密なデータを構築することには、必ずしも強くこだわらず、科学センターとしては、気軽に参加や調査が行える空気感を作っていきたい。

■期待される効果や展望

- 市民が実際に調査することで、現地の実態を体験として知ることができ、科学を通して地域に対する価値観や愛着の創出。
- 市民と専門家が双方協力しあって活動するシチズン・サイエンス（市民科学）の創出。
- 市民と行政が街の活性化や課題、SDGs の推進などを考えるさい、夜空の明るさマップが科学的な基礎資料となる。
- 本事業成果を基に、市の既存事業である生物多様性あなん戦略との連携をはじめ、地域の自然資源（ウミガメ、ホタル、星空など）の保全・活用に対する発展が期待される。

阿南市科学センター TEL: 0884-42-1600

担当者: 今村 和義